

# 令和3年度事業報告

## はじめに

社会福祉法人として6年目の事業年度にあたり、社会福祉法人円合併後4年が経過しました。

令和3年度も法人の運営方針である「障がいのある方たちが誇りと輝きをもって、ありのままに暮らす・働く」を基本に活動し、豊かな地域生活が営めるよう、その能力や可能性を最大限に伸ばすための支援活動をおこなってきました。

前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症への対策、対応に追われた1年でした。利用者やそのご家族、職員に感染が起きたものの、幸いクラスターは発生せず、濃厚接触者の自宅待機・PCR検査から事業所内の消毒作業等まで行政と連携し、迅速に対応することができました。

生産活動の面では、レストランの来客数が一時よりは回復したとはいえコロナ禍以前とは比べるべくもない状況が続いており、利用者の工賃財源を圧迫し続けています。

そのような中でも、コロナ禍により延期となっていた東京2020パラリンピック聖火採火式を仙台市の採火場として選定されたまどかにおいて開催しました。当日は天候にも恵まれ、無観客ではありましたが無事に火起こしも成功し、復興五輪を盛り上げる一端を担うことができました。

## I. 就労支援事業及び生活介護事業について

### ①a. ぴあ（主たる事業所）

#### ・就労継続支援事業（B型）

令和3年度は、4月からの新卒者1名を加え37名の利用者と運営してきました。支援員の事務処理時間の確保とコロナ禍の状況を鑑み、事業所の作業時間を9:00～15:30に変更してご利用いただきました。また、1階の事務室を2階へ移し、その空きスペースを作業室にすることで利用者の作業スペースを1階に集約する事業所の改修工事をおこない、利用者の作業効率の向上やより安全な作業動線の再構築を図りました。

ぴあでは、弁当の製造・販売事業を主たる事業とし、仙台市役所、上杉分庁舎、仮庁舎及び宮城県庁等で行政職員向けのフロア販売をおこないました。定期的（隔月で偶数月）に販売している弁当チケットは常連のお客様に定着しており、売上を更新し続けてきました。メニュー自体のトッピングや彩りに一手間をかけ、メニュー名や説明書きを購買意欲の上がる内容に変更し、お客様に訴求できる弁当を念頭に、販路を維持・拡大する工夫をしてきました。また、毎日の弁当メニューをfacebookにあげることで、お客様に利用しやすい環境を引き続き提供しました。

新型コロナウイルス感染症の影響により外食する方が減少している中、新規参入の弁当事業者や仙台市が実証実験をおこなっているキッチンカーマルシェ等の要因により弁当販売数の変動が大きく、過去の販売傾向やデータが通用しない状況が続き、日々の弁当製造数の決定に難しさがありました。

コロナ禍や世界情勢の影響で食材全アイテムでの値上げが続いており、特に油や魚の上昇率は著しく、従来の販売価格では値上げ分の吸収が困難

になったため、2月から弁当販売価格を520円から540円に改定しました。価格改定後は大きな混乱もなく、お客様にご理解をいただいております。また、11月の法人設立記念日の前後では期間限定でワンコイン弁当販売をおこない、常連のお客様の支持拡大や新規のお客様獲得を目指してきました。

伊達の燻製製造・販売においては、仙台駅構内おみやげ処からコンスタントに発注があり、その対応を中心に事業を展開してきました。製品としては、第八回新東北みやげコンテストに出品、入賞を果たし、仙台市産業振興事業団の紹介で仙台空港での販売会に参加しました。また、同事業団よりECサイトを運営する企業を紹介いただき、伊達の燻製の掲載を検討してきたところです。ECサイトに関しては、楽天市場や食産振興課の県産品紹介サイト「宮城旬鮮探訪」に掲載し、製品のPRをおこない、水産業振興課が実施している加工技術や設備のOEM受託によって既存設備の稼働率の向上や売上の確保を図ってきました。

宮城県物産振興協会よりご紹介いただいたふるさと納税サイト「さとふる」に製品を掲載し、また、同協会グリーンパル事業課より大口の注文をいただき売上に繋げてきました。

## **b. ぴあベーカリー（従たる事業所）**

### **・就労継続支援事業（B型）**

ぴあベーカリーにおいては、各種丸パン、バゲット、生食パン等をレストランぴあやぴあてらすの店頭で、お弁当と一緒に市役所や県庁で販売してきました。新規の販路としては、各区役所（青葉区、宮城野区、若林区）、各支援学校、自治会館、近隣の企業、営業所、消防署等を開拓し、緊急事態宣言等で外販に出ることができない時期もありましたが、売上に繋げてきました。イベント販売では、11月1、2日に仙台駅コンコースで開催されたナイスハートバザールに参加し、1日1,000個を超える製造数を経験し、売上はもとより、作業の効率化や情報共有の方法等について貴重な知見を得ることができました。季節商品としては、12月にシュトーレンを販売し、ホールだけでなくカットされた商品もラインナップに入れることでお客様に選択肢を提供してきました。

また、商品開発も積極的におこない、シュークリームパン、さくらあんぱん、全粒粉ブレッド、マカロン各種、クッキー各種、フレンチトースト、タルト各種、ラスク等、季節ごとに商品を入れ替え、好評を博しています。

### **・就労移行支援事業**

社会福祉法人への移行以来、継続的な利用希望がない状態が続いたため、従たる事業所ぴあベーカリーの開設にあたって、令和3年6月30日で事業を廃止しました。

## **② レストランぴあ**

### **・就労継続支援事業（B型）**

令和3年度は、4月からの新卒者1名を加え利用者18名でスタートし、年度途中に2名の退所者、1名の入所者があり、合計17名の利用者で運営してきました。ぴあ同様に支援員の事務処理時間の確保とコロナ禍

の状況を鑑み、事業所の作業時間を9:00～15:30に変更してご利用いただきました。

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の発出や外出・外食の自粛の影響を受け、客席の亚克力板の配置換えやレイアウトの変更、座席のアルコール消毒の徹底等、対策に万全を期してきました。また、その対応により宮城県認証店として承認を得ることができました。平均来客数は年度初めに30名/日、年度後半に近づくにつれて50名/日まで回復したもののコロナ禍以前の3～5割程度という依然として厳しい状況でした。感染状況の推移によって予約キャンセルも多数発生し、安定した売上確保とはなりませんでした。

打開策として、セルフサービスへの形態の変更、テイクアウトメニューの再検討、みやぎFree-wifiの導入、月2回のコーヒー無料の日（毎月1日・15日）の実施、だて正夢を使用した日替わりおむすびセットの販売、スタンプカードの導入、夏季限定メニュー（稲庭風うどん）やゼリー等の新スイーツの開発、ふれあいデリバリーへの登録、煮物類の小鉢を温かくしての提供、県制150周年ランチや新春ランチ、ぴあのおせちの製造等、サービスの向上に努めてきました。広報としては、『るるぶ仙台・松島‘23』に牛たんランチが掲載され、県外のお客様へのPRにもなりました。

10月19～22日の4日間に渡って品質・接客に関するお客様アンケートを実施、コロナ禍で求められているレストラン像を具体化し、職員間で共有しました。そのような中で9月と12月に全メニューの価格改定をおこない、オリジナル弁当の製造をぴあに戻す等、時流に即した対応をとってきました。

また、ふりかえりノートを作成することで職員間の情報共有や利用者支援の強化を図りました。

令和3年度も各支援学校から実習生を受け入れ、令和4年度は新たに1名の方の利用に繋げています。卒業後の進路として、また、見学会やお食事会でもご利用いただきました。

### ③まどか

#### ・就労継続支援事業（B型）

令和3年度は、4月からの新卒者1名を加え利用者28名でスタートし、年度途中で1名の退所者、1名の入所者があり、合計28名の利用者で運営してきました。

まどかとしては、東京2020パラリンピック聖火の仙台市の採火場として選定されたことを受け、8月15日にパラリンピック聖火採火式を開催しました。当日は、仙台市副市長をはじめ来賓の方々よりご挨拶をいただき、ゲストの方々の演奏で穏やかな雰囲気の中、利用者の皆さんによる聖火の採火がおこなわれました。

また、ふれあい製品フェア（市民広場で開催）やふれあいデリバリーへ参加し、売上の確保を図りました。広報としては、地元情報誌『りらく』に掲載され、地元の方々への認知度を高めました。

レストランぴあてらすにおいては、引き続いてのコロナ禍の影響もあり来客数は伸び悩みを見せました。提供メニューの工夫やイベント的なメニューの販売（うな重、開店2周年記念ランチ、Xmasランチ・オードブル、

初売、新春ランチ）、コロナ対策認証店おうえん食事券、おいしい宮城米キャンペーンへの参加、スタンプカードの導入、スマートミール食の提供、等で、お客様の興味を惹く試みをおこなってきました。また、ローリングストック法による非常食の製造・備蓄や避難訓練をおこなう等、有事の際に備えました。コロナ禍での集客を鑑み11月より祝日も店休日としています。

前年度に引き続き名取市役所、岩沼市役所、太白区役所へ外販に出向き弁当販売をおこないました。弁当販売自体も定着し、常連のお客様を獲得することで安定した売上をあげています。

ベーカリーぴあぶらんでは、無添加で国産小麦を使用したぴあぶらんブランドのパンやクッキー、スイーツ等を製造し、店頭での販売の他に周辺の保育園や幼稚園、支援学校等へ受注販売をおこないました。イベント時のXmasケーキやハートボンボンに加えてお中元やお歳暮としてレモンのパウンドケーキやゆずのパウンドケーキのセットを販売し、完売しています。また、太白区パン巡りに参加し、パンマップに掲載することでパン好きなお客様の集客に繋がりました。

農園事業については、計画的な作付けを基本とし、減農薬栽培を実践してきました。まだまだ収量が不安定なこともあり、近隣農家の方々から協力をいただき仕入可能野菜品目を時期毎にリスト化し、ノウフクマルシェ（ナイスハートバザールと共催）をはじめとした外販に取り組みました。また、独自の製品として各種乾燥野菜や切り餅を製造・販売する試みをおこないました。

清掃事業については、近隣の保育園や事業所から清掃業務を受託し、定期的に作業をおこなってきました。

令和3年度も各支援学校から実習生を受け入れ、令和4年度は新たに2名の方の利用に繋がっています。卒業後の進路として支援学校の生徒や保護者、教職員等の見学会をおこない事業所の情報の周知に努めました。

#### ④まどか西中田

利用者の方々への支援力向上のため両事業とも積極的に外部研修に職員を派遣してきました。

##### ・就労継続支援事業（B型）

令和3年度は、4月からの利用者1名を加え利用者10名でスタートし、年度途中で1名の退所者があり、合計9名の利用者で運営してきました。

手作りマスクの製造・販売においては、ぴあてらすや名取市役所での販売が事業所職員によるモデル着用の効果もあり好調に推移しました。お客様の声をリアルタイムに反映することでマスクカバーやマスクを押さえる帯をリバーシブルにしたマスクといった商品開発も可能となりました。デニムマスクの製造・販売に関しては、仙台市及びみやぎ生協の協力によりチラシを配布していただくことで売上に繋がりました。

マスク以外にもくるみボタンや正月飾り、吊るし飾り（くくり花のミニ飾り、苺と蝶の春飾り、苦が去る、くくり花のキーホルダー）等を製造し、販売しました。販売時期が限定されるもの以外で年間を通して製造・出荷できる製品の開発が課題となっています。

新聞包装紙は、取引先の変更等がありましたが、年間を通して安定した

作業量、売上となりました。基板解体事業については、コロナ禍の影響で企業がPCの入替を含めた設備投資を控えたため入荷自体が少ない1年となりました。

土曜開所日の余暇活動は外出を避け、カラオケ等のレクリエーションや運動不足解消も兼ねて事業所の庭の手入れをおこないました。

### ・生活介護事業

令和3年度は、4月からの利用者1名を加え利用者10名でスタートし、年度途中で1名の退所者があり、合計9名の利用者で運営してきました。

日中活動支援の充実を目指して、利用者懇談会を実施し、希望を取り入れながら、利用者ご本人に寄り添ったきめ細やかな支援に取り組みました。音楽レクリエーションやXmas会をおこなう等、穏やかな時間が流れる行事を取り入れ、利用率向上に繋げてきました。また、新型コロナウイルス感染症対策のため外出が難しくなった中で身体能力の維持・向上のために食後に嚥下体操をおこなう等、体調の変化に素早く気づける情報共有の体制を構築してきました。

令和3年度も各支援学校より実習生を受け入れ、令和4年度は新たに1名の方の利用に繋げています。支援学校卒業後の進路として、事業所の情報の周知に努めてきました。

## Ⅱ. 相談支援事業について

### あしすとぴあ

- ・指定特定相談支援事業所
- ・指定障害児相談支援事業所

障害のある方が障害福祉サービスの支給決定を受けるにあたって行政に提出が必要なサービス等利用計画案・障害児支援利用計画案及び本計画を作成・提出し、モニタリング等の継続支援をおこなってきました。

6月に正式に事業所を若林区遠見塚から宮城野区日の出町に移転し、法人本部やぴあとより容易に連携が可能になったことで相談支援専門員の孤立を防止することができるようになりました。

一人事業所として受入人数が限界に達しているため、新規受入の制限や、他の相談支援事業所へケースを繋ぐことで対応してきました。

## Ⅲ. 共同生活援助事業について

### ぴあびーんず

令和3年度は利用者の方3名で運営してきました。定員4名を満たすべく法人内部はもとより外部からの利用者も募るために、あしすとぴあや他法人の相談支援事業所、各区役所と連携してきました。

また、宮城野区五輪でのグループホーム新設に向けて、建設用地の取得や建築業者の選定・入札、福祉医療機構との借入金の打合せ、利用者保護者・職員を対象としたグループホーム研修会の開催等を随時おこなってきました。

## Ⅳ. 広報活動について

全面的にリニューアルした法人ホームページ内のfacebookを中心に情報発信をおこなってきました。法人のfacebookでは法人・事業所の近況報告

やイベント告知、報告を、お弁当のホームページでは日替わり弁当のメニューや画像を掲載し、広報してきました。

また、後援会と連携し、後援会だより等でより幅広い層の方に法人・事業所の活動を知ってもらうことができました。

## V. 啓発活動について

宮城県庁18階のレストランぴあを始めとし、宮城県の障害者支援のアンテナショップとして、法人の理念である「障がいがあってもなくても、今できるありがとうをみんなで社会に還元していく」を実践してきました。福祉だけでなく宮城県、仙台市の被災後の食の安全と産業再生への地域的取組みも併せて積極的に発信してきました。

## VI. 地域生活支援事業（余暇活動等）について

### ・地域における公益的な取り組みについて

復興五輪として位置づけられた東京2020パラリンピックの仙台市の聖火採火場として選定されたまどかにおいて、8月15日にパラリンピック聖火採火式を開催しました。当日はコロナ禍のため無観客を余儀なくされましたが、地域の代表の方々とまどか利用者の皆さんで火起こしをおこない、採火した聖火を仙台市役所まで送り届けました。地域に根差した事業所であるまどかを象徴するイベントとなりました。

### ・コーラス活動（ぴあま〜る）について

在仙アーティストの猪狩太志氏の指導の下で土曜日にコーラス練習会（合計8回）をおこないました。コロナ禍のため発表の場もほとんどない状態でしたが、オンライン開催された「とっておきの音楽祭」に動画で参加し、練習の成果を発揮することができました。

### ・卓球練習会について

外出自粛による運動不足解消のため土曜日に卓球練習会（合計6回）をおこないました。卓球経験のある職員を中心に、ウォーミングアップから試合形式の練習まで身体を動かし汗を流しました。

### ・研修旅行について

11月7日に銀山温泉、天童方面に希望者で研修旅行をおこないました。新型コロナウイルス感染症の影響により前年度に引き続き日帰りでの研修旅行となりましたが、団体での行動等、日常とは異なる体験をすることで充実した社会研修となりました。

## VII. その他

### ・職員研修

外部研修として下記の研修に職員を派遣しました。

「北海道・東北ブロックセミナーin宮城」

「働く人の健康と身体活動」について」

「メンタルヘルス不調者の職場復帰の進め方」

「HACCPの考え方を取り入れた衛生管理研修会」

「食品衛生責任者養成講習会」

## 「実務担当者のための消費税・インボイス制度まるわかりセミナー」

内部研修として「「グループホームを考える」研修会」を利用者保護者の方々を交えて12月11日宮城野区中央市民センターにて開催しました。

各事業所の多忙な通常業務の中で職員の研修参加は負担の大きいものでしたが、職員間の連携で資質向上のための多くの研修に繋げることができました。引き続いての新型コロナウイルス感染症の影響もあり、対面とリモートを並行した研修の開催が通常になったことも特徴的でした。

### ・健康管理について

利用者・職員等の健康維持のため、健康診断を実施し、嘱託医の金野公一医師及び沖田内科医院の沖田医師のご指導の下、利用者の健康管理に留意してきました。